

解題

戒田 栄

- 1 名称 松山藩士奥平家文書
- 2 旧蔵者 奥平昌功（東京都在住）
- 3 文書の伝来

本文書は昭和 29 年 8 月に奥平貞幹の遺族 昌功氏が当図書館に寄贈せられたものである。

奥平家は松山藩家老奥平藤左衛門家の一門九家の一で、貞幹は次左衛門の長男で蕉夢と号し、文化 14 年 3 月に生れ、明治 15 年 4 月に 66 才で没した。

- 4 文書の内容

奥平家の文書記録のうち貞幹に関するものが最も多く、その主なるものは次の通りである。

「月窓の巻」1 巻は、貞幹が幕末長州征伐の藩御用掛として、その後始末のため使者となり長州に赴いて、種々交渉した顛末を自ら書き残したものである。

「奥平貞幹履歴書」は、その袋書に「明治 13 年 3 月改メ。奥平三左衛門貞幹松山藩奉仕中之履歴也。第 1 号より第 2 号に続く」とあり、別の袋の中には「貞幹履歴第 2 号。隠居再勤するの分。明治 13 年 3 月」とあり、貞幹が没する 2 年前に集めたものである。

「先代古筆」（宝暦 13 年）は、奥平家の由緒書であり、また「薩州表エ御使者被遣応接書面」（慶応 2 年）は、決して他見を許さざる重要記録にして、使者としてのその功績の一端を示している。

その他、大可賀新田開発の記録である「大可賀新田日記」。さらに貞幹が周布郡桑村郡代官として小松領と境界争いの解決に努力した「福田福水記」や周布桑村郡長原信文投書は貞幹のこの地方の開発治水の功績を顕彰したものである。